エベネゼル緊急基金

2021年 #42
Issue 1 2021

EBENEZER
OPERATION EXODUS

奇跡

ブネイ・メナシェ族の帰還



「わたしは、力強い手と伸ばした腕、注ぎ出る憤りをもって、あなたがたを国々の民の中から連れ出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。」　エゼキエル書20章34節

神の民の帰還を援助するクリスチャンの働き



準備せよ!

国　際



ピート・スタッケン
Pete・Stucken
議長
国際理事会

今から３０年前の1981年１月に、エルサレムにおいて、祈りの大会が開催されました。２４か国から１２０人の代表が参加しました。テーマは、「この国のために、わたしの前で、・・・破れ口を修理する者・・・」となる召し（エゼキエル書２２章３０節）でした。彼らは戦争の脅威の中であるにもかかわらず参加しました。サダム・フセインがスカッドミサイルをエルサレムに向けて発射した時には、彼らはガスマスクをつけてシェルターに逃げ込むこともありました。しかし、それによっても彼らは妨げられることはありませんでした。そのような状況の中で、エベネゼルの働きは始まったのです。

主は、この働きを始めるために選んだ主の僕であるグスタフ・シェラーに、ふさわしくないと思われるような時を選んで語られたのです。「今こそ、私の民が帰還するのを助け始めることができる。」と主は語られました。そしてその後にささげられた献金が、エベネゼルの最初のアリヤーの働きのための資金となったのです。

粘り強い信仰、葛藤、祈り、そしてさらに祈り、失敗、奇跡などが、始めたばかりのころの働きの特徴でした。グスタフ氏の初期の働きの証で、祈りについて１１３回以上も語られています。グスタフと妻のエルサと彼らの同労者たちは、祈りの重要性について学びました。そしてそれがエベネゼルの、現代のアリヤーにかかわる働きの中心的な土台となったのです。

スティーブ・ライトル氏が、1974年に見た、旧ソ連のユダヤ人が解放されるという幻を通して、グスタフの心は準備され、そしてスティーブのみことばからのメンタリングを通して整えられていきました。グスタフは自分が奇跡を体験することになると理解していました。出エジプトにおいて、神の契約の民の最初の偉大なアリヤーが起こった時に、エジプトの悪霊的な神々への大きな裁きがありました。そしてイスラエルの子らには、力強い解放の奇跡が起こりました。そして遂に紅海が分かれ、彼らを追う者たちが完全に滅ぼされる一方で、彼らは救われたのです。

「そこで、主は力強い御手と、伸べられた腕と、恐ろしい力と、しるしと、不思議とをもって、私たちをエジプトから連れ出し、」申命記26章8節

グスタフの証にはこう語られています。

「それから私たちが祈ってきた奇跡がやってきました。・・・（2章）」

「私たちには奇跡が必要です。・・・」（６章）・・・それは奇跡のようだった。・・・」（８章）

イスラエルの神は、神の民の帰還のために、奇跡のわざを続けられるのです。

すべての栄光はただ主のものです！エベネゼルは、ただの小さな僕が神の啓示による目的の働きに参加したに過ぎないのです。アリヤーは、主の聖なる御名に栄光を返します。私たちは決してそれを妨げてはならないことを学びました。栄光を、ただ主の御名にのみお返しします。（詩篇１１５篇１節）

今、３０年たって、私たちは喜び、イスラエルの忠実な神に賛美をささげます。そして、神様が常に私たちを召しにおいて支えてくださったことを感謝します。神様は、イスラエルの預言の成就として、数多くのオリムの帰還を支援する働きを助けてくださったのです。

近くからも遠くからも私たちは召しを受けました。私たちは主が御自身の手を国々に向けて上げられ、国々の民に向かって旗を掲げられたのです。私たちは印を見てそれに応えました。そして、イスラエルの息子たちをふところに抱いて来、イスラエルの娘たちを肩に負って来たのです。（イザヤ書４９章22節）



上の写真：

スティーブ・ライトルが１９９１年にオリムを歓迎しているところ

左から右へ：ガナー・オルソン（ICCC　国際キリスト教商工会議所）

スティーブ・ライトル、

ケレン・ヘイソッド（KH）代表

グスタフ・シェラー

KHから感謝状を受け取っている

下：１９９１年のエルサレムでの国際祈りの大会において、ガスマスクを着用しているところ



「そこでサムエルは一つの石を取り、それをミツパとシェンの間に置き、それにエベン・エゼルという名をつけ、「ここまで【主】が私たちを助けてくださった」と言った。」
第１サムエル7章１２節

過去30年の記録の上に私たちは安住すべきでしょうか。決してそうではないでしょう。主がこれまでなしてくださったことを感謝と喜びをもって祝うとともに、慎みをもってこれから主がなしてくださることに向かっていくべきなのです。

聖書的な視点から見て、最初の30年は準備の期間を表しています。３０というのは、責任を持って仕えていくための資格が与えられる年齢です。幕屋での奉仕は、３０歳から始まりました。ヨセフもパロの前に立ったのは30歳でした。ダビデも王となったのは30歳でした。イェシュア、すなわちイエス様が働きを始められたのも、およそ30歳でした。（ルカ3章２３節）

エベネゼルは30歳であり、今までにないほど仕える準備ができていると言えるでしょう。私たちは、主の御手の器として、さらに成熟した段階で仕える変化を迎えるでしょう。主は私たちの心をこのために整えてくださっています。私たちはただ信仰と謙遜によってそこに入っていくことができるのです。

私たちの前には、力強い出エジプトが国々から勢いを増していく中で、さらにチャレンジや困難や、奇跡的な祈りの答えがあるでしょう。

「――【主】の御告げ――その日には、彼らは、『イスラエルの子らをエジプトの国から上らせた【主】は生きておられる』とはもう言わないで、

23:8『イスラエルの家のすえを北の国や、彼らの散らされたすべての地方から上らせた【主】は生きておられる』と言って、自分たちの土地に住むようになる。」
エレミヤ書23章７－８節

エジプトからの出エジプトの前に、主はエジプトの偽りの神々を裁きました。そしてそのことによってエジプト全体に大きな災害と激動が起こりました。これからの時代に、同じようなことが起こるのでしょうか。全能なる主、イスラエルの神は、神の民をさらに大規模にアリヤーされる中、国々の偽りの神々を裁かれるのでしょうか。神はすべてにまさって主権を持っておられるお方です。

「わたしは、力強い手と伸ばした腕、注ぎ出る憤りをもって、あなたがたを国々の民の中から連れ出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。」
エゼキエル書２０章３４

30周年を迎える中、準備せよという召しが私たちの耳に響きます。仕える準備をすること、他のことをわきによける準備をすること、自分を捨てて信仰の創始者であり完成者なる主に従う準備をすること、次の重要な段階において主の目的に仕えるために一歩を踏み出す準備することです。

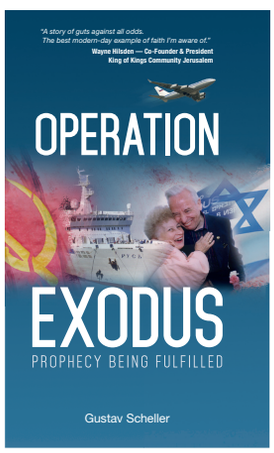


写真　上

「出エジプト作戦　グスタフ・シェラー著

日本語版もあります。」





写真　上と下

新しい世代のオリムたち

ブネイ・メナシェ族の若い家族、最近シャベイ・イスラエルとエベネゼルの支援によってインドからイスラエルへ帰還。この家族は自分の先祖の国で生活し成長する機会が与えられています。皆さんの尊い支援に感謝します。



オペレーション・ズル・イスラエル（イスラエルの盾作戦）

エチオピア



ダニエル・モル
Daniel Mor
イスラエルのための
イスラエル機関

イスラエルの盾作戦は、エチオピアから416人のオリムをイスラエルへ連れて行きました。

報告によると、イスラエル政府とともにイスラエルのためのユダヤ機関によって導かれた便は、イスラエルの盾作戦の一つとして、エチオピアの家族の統一のために行われ、１２月３日にベングリオン空港へ到着しました。これは、昨年１０月にイスラエル政府によって、２０００人のアリヤーをエチオピアから帰還させることを承認したことに伴うもので、多くのエチオピアのユダヤ人たちは、何十年もの間、イスラエルへ移住して家族と合流することを待ち続けてきました。

「長い間、私はこのように純粋にシオニストを表す光景を見て、これほどまでに感動したことはなかった。」とイスラエルのベンジャミン・ナタニエフ首相は語りました。「私は妻のサラとともに涙しながら、エチオピアからのユダヤ人兄弟、姉妹たちが飛行機から降りてイスラエルの地に立つのを歓迎してそこに立っていました。ある母親は飛行機を降りた時に、地面に口づけをしました。その方は、エルサレムという名の男の子の赤ちゃんと、エステルという名の赤ちゃんを抱いていました。エルサレムとエステルが今やイスラエルへ来たのです。そしてこれこそがユダヤ人の話の真髄であり、シオニストの話の真髄なのです。」

「エチオピアからのオリムで満員の便が着陸するのを見ることは驚くべき光景でした。」

と、ユダヤ機関の議長であるイサク・ヘルソグは言いました。

「長年の分離の後、これからは２０００人のオリムがイスラエルへ帰還して家族と合流するまでこの便を継続していきます。ユダヤ機関は、アリヤー吸収省と内務省とともに、何週間もの間協力し、イスラエルとエチオピアの両国において、昨年１０月にイスラエル政府によってなされた決断に基づいてこのことを可能にしたのです。そして、今私たちの目の前でこのことを現実として見ているのです。」

イスラエルの盾作戦は、エチオピアで待っているユダヤ人たちがイスラエルに到着するまで続くでしょう。新しく到着したユダヤ人たちは、まずイスラエルにいる家族に会う前に隔離期間を持ちます。そしてユダヤ機関が彼らの新しい生活を支援します。

ユダヤ機関とこのアリヤーを支援してくださりありがとうございます！私たちはこのようにともに協力して、兄弟姉妹の帰還を支援しています！

写真
Iamges ©Oliver Fitoussi
ユダヤ機関







ブネイ・メナシェ族の帰還の奇跡

インド

ブネイ・メナシェ族のアリヤーは、現代の奇跡です！これは本当に神のみことばで預言された、散らされた者が天の果てにいても、主が彼らをそこから集めると約束された終わりの時代の出エジプトの一部なのです。（ネヘミヤ記1章9節）

ブネイ・メナシェ族は、アッシリア帝国によって２７００年前に散らされた失われた１０部族の一つです。彼らはミャンマーとバングラディシュの国境付近、またインドの北東にあるミゾラムとマニプル州に居住していました。

インドに住む９０００人のブネイ・メナシェ族の中から、すでに２０００人がイスラエルに帰還しました。パンデミックにもかかわらず、昨年１２月16日に、シャベイ・イスラエルというイスラエルの失われた１０部族が約束の地に帰還する支援をする団体が、２５３人のブネイ・メナシェ族のユダヤ人を無事帰還させました。エベネゼルは、このオリム達の国内での必要な費用のほとんどすべて（アリヤーの学習教材や、医療費、スーツケース代、国内交通費、空港での荷物の超過料金、コロナの検査費用など）を支援することができました。

ブネイ・メナシェ族のアリヤーは、イスラエル国にとって重要なものです。過去3年の間、イスラエルが長期の政府を確立できずにいたため、彼らの帰還も滞っていました。しかし、吸収省大臣のペニナ・タマノ・シャタは、シャベイ・イスラエルが722人のブネイ・メナシェのアリヤー支援を可能にすることを承認しました。そしてその最初のグループが１２月に到着したのです。大臣はまた今後5年計画を通して、すべてのインドに在留しているブネイ・メナシェ６５００人を帰還させる予定です。このことが本当に実現し、一人残らず帰還することができるように、ぜひともにお祈りしましょう！

私たちは、エベネゼルの寛大な支援者と世界中の忠実なとりなし手に心から感謝しています。それを通して主が働いてくださり、ブネイ・メナシェのユダヤ人の夢がかなえられているのです！皆さん無しでは、彼らのアリヤーはこれほどまでにスムーズには進まなかったことでしょう。

全能者なる神様の手となり足となって仕えることができるとは、何という特権でしょうか。神様は繰り返し、御自身のご性質と、散らされたユダヤ人に語られた御自身のみことばに対する忠実さをあらわしてくださっているのです！



ディーパ・トーマス
Deepa Thomas
インドコーディネーター





用語解説

アリヤー(Aliyah)：
ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還すること を意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency)：
1929年 C.ワイズマンによって創設され，エルサ レムに本部をもつユダヤ 人の国際的機関。パレス チナにユダヤ人の本拠を 設けるというシオニストの計画の対外機関。パレ スチナへのユダヤ 移民の監督，ユダヤ系経 済組織の確立などに努める。

オリム(Olim)：
イスラエルに帰還するユ ダヤ人



神の忠実さの上に立つ

U S A



ジョン・プロッサー
John Prosser
USA 代表

「あなたは知っているのだ。あなたの神、【主】だけが神であり、誠実な神である。主を愛し、主の命令を守る者には恵みの契約を千代までも守られる」申命記7章9節

このアメリカ合衆国において、エベネゼル出エジプト作戦とともに、国々からのアリヤー支援の３０周年を迎えることができることは、私たちにとっても特権です。神様の忠実さにただ感謝するばかりです!これからの時代において、さらに大きなアリヤーの神様の力強い奇跡を見ることになると信じております。

今は、アメリカにとって非常に重要な時です。私たちは危険な時代に突入していることを十分認識しています。しかし、私たちは神の忠実さに希望と信頼をおいています。それは、神様が私たちの国と世界の国々においてすべてを治めておられることを知っているからです。

神様は私たちの働きに豊かな恵みを注いでくださり、２０２０年にはおよそ５００人のオリムが勇気ある決断によって彼らの故郷であるイスラエルへと帰還しました。

シャヤンは、特別な若者で、昨年私たちは彼を支援する機会が与えられました。彼はこう述べていました。

「このように霊的にも精神的にもつながりを感じる場所は、他にありませんでした。故郷のような場所はないのです。それで、私は知る限りのすべてのユダヤ人にアリヤーして新しい人生を私たちの民とともに始めるという夢を実現するように励ますことを私の使命としたのです。・・・私は、自分の心、からだ、たましいが属する故郷に帰るのが待ちきれません。ユダヤ人はその地で、今までにないほど生き生きとしています。」

アリヤーの旗を掲げることは、これからの時代において最優先となります。アリヤーの緊急な必要性は、多くのユダヤ人社会において認識されており、多くのアメリカのユダヤ人たちも、選択支というよりは、必要性として考えているようです。まだ危機の状態ではありませんが、それが近づいていることは確かです。



今私たちは、今まで以上に、主の覆いの下に立つことが必要です。私たちは、主の声を聞くことができると確信しています。私たちの道を主に委ね、イザヤ書30章21節にあるように、主に一つ一つのステップを導いていただくことが必要なのです。

「あなたが右に行くにも左に行くにも、あなたの耳はうしろから「これが道だ。これに歩め」と言うことばを聞く。」

イザヤ書30章21節



祈りの中で生まれる

祈　り



スティーブ・ライトル
Steve Lightle
国際的聖書教師

私は、1974年８月からアリヤーの働きに携わってきました。集中的な6日半の祈りの後で、神様の恵みによって、私はソ連の崩壊によりユダヤ人が船や飛行機でイスラエルへ帰還するという幻を見ました。この働きは祈りの中で生まれ、今日まで祈りに中で続いています。祈りこそ、私たちの働きの土台なのです。

１９８２年に、私はグルタフとエルサ・シェラーにエルサレムで出会いました。グスタフ・シェラーはその時私たちの家に滞在しました。私は彼に自分が見た幻について分かち合いました。そして、彼は人生で初めて私たちとともに断食しました。これが、私たちのつながりの初めであり土台となりました。キエル・ショベルグとヨハネス・ファシウスもその後私たちに加わりました。ある時私たちが祈っている時に、ヘンリー・バックハウス氏が私たちのところに立ち寄り、1月に祈りの大会を催して、世界中のとりなし手を招待してはどうかと提案しました。私たちは、それが主からのものだと感じました。そしてこのように初めての祈りの大会が開催されましたが、200人以上のとりなし手たちが多くの国々から、またイスラエルの信者たちも参加されました。そしてこの大会は今日まで継続しています。


OPERATION EXODUS
THE MIRACLE HAS BEGUN
Summer 1991

こうして、グスタフと私は、出エジプトの航路と出エジプト作戦の3回の渡航を始めたのです。グスタフは私をウェールズの聖書大学へ連れて行きました。そしてそこでキングスレー・プリディー氏と知り合い、もう一人の祈りの勇士が加えられ、私たちは非常に励まされ、預言的なことばも与えられたのです。（グスタフの書、「出エジプト作戦」に記されています）

１９９０年に、私はとりなし手のグループを導いてイラクへ行きました。そこで、サダム・フセインはソ連を締め出すために、スカッドミサイルをイスラエルに発射すると言いました。私たちはスカッドミサイルが不発弾となるように祈りました。そしてそのことが、３０年前に、１９９１年１月にエルサレムのホーリーランドホテルで行われた祈りの大会中に起こり、スカッドミサイルがイスラエルに発射されたのです。

ガスマスクを着用して、私たちはホテルの爆弾シェルターで祈りました。その時、グスタフは、主が彼にエベネゼル出エジプト作戦を始めるように語られたと言ったのです。そして献金が与えられ、この働きは３０年にわたり祈りを通して継続してきています。主は忠実に、主の働きをするために必要の全てを満たしてくださったのです。





故郷の地に植えられて

イスラエル



イスラエル
ジアン・ルカ・モロッティ
Gian Luca Morotti
アムター議長

私たちは今日に至るまで、イスラエルにおいて人道的支援を続けています！私たちは、困窮した人々のために、助けの岩（エベネゼル）に献身しています。

12年前に、エベネゼル国際理事会は、信仰の行いとして、エルサレムに支部を開設することを決めました。今日、私たちの目の前で、主が忠実にご自身の民に対してみことばを成就してくださったことを、私たちは証することができます。シャーリー・ローレンソンが支部を訪れたオリムたちに実際的な支援をし、また慰め励ましを与えたいという願いをもって導かれたことが、エベネゼルの働きの指標となりました。そして、ユダヤ人たちを故郷に帰還させるために神とともに働く中で、イスラエルでエベネゼルの働きを確立するための鍵となったのです。

過去何年かの間に、エベネゼルイスラエルは、イスラエルの地における困窮した人々の支援のための本格的なアムター（ヘブライ語で非営利団体）となりました。エベネゼルのイスラエルチームは、多くの人々にとって祝福となるために、神の恵みによって御手の器として用いられています。私たちはまた、ユダヤ機関と協力して、クリター（移住者吸収）の過程を支援するプロジェクトを始めました。この働きは、主が次のように語られたことを正確に表すものです。

「わたしは彼らを幸福にして、彼らをわたしの喜びとし、真実をもって、心を尽くし思いを尽くして、彼らをこの国に植えよう。」エレミヤ書32章41節

私たちはこの働きの拡大の新しい段階に入りました。また、ハイファハウスがオープンし、新しいオリムたちがイスラエルに到着した時に、滞在することができる場所を提供することができるようになりました。

過去何年かの働きの後で、私たちのイスラエルにおける働きの目的は、主の御名がほめたたえられることであり、また、イスラエルにおいても世界の国々においても、イスラエルの神こそが、イスラエルの神であると言われるようになるのです。（I歴代誌17章２４節）

上：中央イスラエルにあるアヤロン谷のぶどう畑

左：エベネゼルのイスラエルコーディネーターであるジェレミー・スミスが南アフリカからアリヤーしたダニエルと娘に歓迎を表している

右：ジェレミーと、ブラジルからアリヤーしたリカルド、妻、と二人の娘とともに





Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Offi ce
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org

Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086

Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

EBENEZER
OPERATION EXODUS

エベネゼル緊急基金日本支部

〒 062-8691 豊平郵便局私書箱 37 号
Tel&Fax: 011-813-3558（岡田）
office@ebenezerjapan.org
http://ebenezerjapan.org/

郵便振替（名称）エベネゼル緊急基金
（番号）02710-0-55842

Operation Exodus （出エジプト作戦）はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に３人の人から始まりました。
イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた２５カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。